



一宮町長  
馬淵 昌也

私は読書の際には、音読することを習慣にしています。今は読書というよりも、黙読しかないようですが、私は黙読より音読の方がすぐれた読書法だと思っています。まず、なんといつても、音読は、漢字や英語の単語でも、発音を

わきまえることができます。わからない言葉が多くあると、調べるのが大変ですが、古い本にはルビが振ってあることも多く、助けられます。ことばは自分の口に出して何度も発音することで、自分のものとなりますので、音読することはそのことばを自分のものにする第一歩となります。

また、音読してゆくことで、集中力も増し、眠くならないという効果もあります。若い頃、カントやヘーゲルの哲学書等に挑もうとしましたが、黙読だと何をいつているのかわからず、すぐに眠くなって読み進められませんでした。しかし音読してみると、最後まで読破できて、内容も大体見当がつきました。歯ごたえある本を読むとき、音読は最適です。

実は、音読は、近代以前の学習方法としては標準的なものでした。中国では、科挙を受けるために、四書五経を

小さい時から勉強しましたが、音読して暗誦するのが基本でした。暗誦という、創造性がないと思うかもしれませんが、実は作文能力を高めるために大変有効な方法であり、外国語の習得にもこの上なく有効なのです。

長く外国語教育に携わっていた経験から、外国語を話せるようになるには、短い文を文法事項に沿ってたくさん音読・暗誦してゆくことが大事だと実感しました。その上で短い論説文に進み、音読・暗誦し続け、次には、暗誦したものを使って、現実に会話をする練習が必要です。しかし、音読から暗誦までいければ、会話の機会さえ得られれば容易にしゃべれるようになります。

近代の集団教育の中で、音読は黙読に取って代わられました。黙読より読書速度が遅いことが問題だったのでしょうか。現代の社会では、電車の中などで大きな声で音読するのははばかられます。しかし、皆様のお宅ではいくら声を出して読んでも問題なしです。皆様も本を音読して、その味わいを確かめてご覧になってはいかがでしょうか。